

# 2019年度 第1回 ピットフォール研究専門委員会 議事録

日 時：2019年9月27日(金) 8:30～9:20

場 所：仙台国際センター・会議棟1階 小会議室3

出席者(敬称略)：中野 恵一(北海道大学病院)、長田 誠、藤田 清貴(群馬パース大学)、  
三好 雅士(徳島大学病院)、阿部 雅仁(栄研化学株式会社)、清宮 正徳(国際医療福祉大学)、  
阿部 正樹(東京慈恵会医科大学附属第三病院)、菅野 光俊(信州大学医学部附属病院)、  
細羽 恵美子(東京女子医科大学病院)  
途中出席：川崎 健治(千葉大学医学部附属病院)、小島 和茂(日本電子株式会社)  
欠席者(敬称略)：濱田 悦子(文京学院大学)、上田 一仁(関西医療大学)、

## 【報告、確認事項】

### 1. 新規委員の紹介

東京女子医科大学の細羽恵美子先生からご挨拶があった。

### 2. 2018年度活動報告について(資料1)

ピットフォール事例集をホームページに掲載した。また、ピットフォール相談窓口を開設し、相談を受けられる体制が構築された旨報告あった。

### 3. 2018年度会計報告(資料2)

コピー用紙代、切手代、自動化学会での会議室使用料として合計6,082円を支出した旨報告があった。予算に余裕があるため、購入する物品等がある場合は委員長に連絡することとした。

### 4. ピットフォール研究専門委員会シンポジウムの進行について(資料3)

第56回日本臨床化学会ピットフォール研究専門委員会シンポジウムを資料3の通り実施することが説明された。また、事前打ち合わせを行う旨、連絡があった。

日時：9月27日(金) 15:30～16:00、会場：会議棟1F「小会議室1」

### 5. 2019年度の臨床化学会近畿支部総会案内(資料4)

第72回日本臨床化学会近畿支部例会にて日本臨床化学会ピットフォール研究専門委員会報告を行う旨報告があった。報告に必要な書類を上田先生にお渡しすることになった。

他の委員が講演を行う際、今回作成する上田先生のスライドを用いて「ピットフォール研究専門委員会」の宣伝を行いたいとの申し出があり、承認された。

### 6. 臨薬協との包括契約について

阿部(雅)委員より、臨薬協との「ピットフォール事例の一括包括契約」についての話し合いを行ったが、提出される事例の対応がそれぞれ異なるため、包括契約は難しい旨報告された。また、その他の懸念材料として、「各メーカー間での温度差もある」「包括契約により、直接メーカー側に相談や連絡が来ない」ことが報告された。このような理由から、今後は各メーカーと個別に契約することになった。

### 7. 相談窓口活動報告

清宮委員より個人的に異常反応の相談を3件ほど受けたが、委員会への相談には至らなかった旨報告があった。一緒に異常検体の解析を行いましょと伝えると連絡が来ないため、さらなる積極的な活動が必要である。また、施設の中で患者さんへの有用な情報となる場合は、メーカーに連絡して解決されるピットフォール事例がある旨報告があった。

メーカーに対しても倫理委員会を通すことが重要であることが確認された。

## 【審議事項】

### 1. ピットフォール解析事例集について

#### ・体裁の見直しについて

阿部委員より、新東京病院の石橋先生から、文字が小さい、セルに入りきらない、罫線が見られない等の指摘を受けたことが報告された。変更案として、対処法、臨床への対応に関しては、記載がない場合が多いため、削除する方向とし、現象と発見、材料に関しては2段にしてカラムを狭める。雑誌名は省略名にし、著者は代表1名とする。見やすくするために罫線を付けることが確認された。

#### ・拡充について

今回の「臨床検査におけるピットフォール事例報告」を、コーディネーターが事例集に加える旨確認された。また、今回の報告を論文化するようコーディネーターが促進する旨確認された。日本語の場合は日本臨床化学会の雑誌とする。

ピットフォール解析事例を増加するため、各委員が少なくとも1論文の書き込みを実施する旨、確認された。フォーマットは三好先生が作成し、委員に送付することになった。

日本臨床化学会のホームページから「ピットフォール解析事例集」を掲示することが難しいため、日本臨床化学会のホームページ上から、相談窓口と事例集が確認できるよう要望する旨、承認された。

#### ・ファイルの扱いについて

ピットフォール解析事例集のエクセルファイルデータを欲しいと要望された場合は、ピットフォール研究専門委員会にて承認後、三好委員から送付する旨、確認された。

### 2. ピットフォール相談窓口の運用について

#### ・相談事例が増えないことについて（このままでよいか、積極的に宣伝するか）

地方の相談委員を増やすことが提案された。

相談窓口におけるマニュアルを作成することが重要であり、それぞれの過程においてエビデンスを持った解析ルートを作成する旨、承認された。免疫血清に関しては、阿部（正）委員が、臨床化学については、中野委員がフローチャートを作成し、実施する意味やエビデンス等の基盤を作ることが確認された。また、数年を目標に、ピットフォールに関する雑誌を作りたいとの要望があった。

### 3. 「ピットフォール研究専門委員会からの挑戦状」の具体案について(資料5)

濱田委員より資料5に示す通り、ニュースレターを配信し、症例・事例提示し会員に考えていただき→解析結果の一部を開示し会員にさらに考えていただき→解説を行い会員からフィードバックをいただくことを実施したい旨確認された。年に何回実施するのか、誰が書き込むのか、症例の個

個人情報保護はどうするのか等について、今後の検討課題となった。

4. 来年度のピットフォール事例報告・討論会について

上田委員と中野委員が担当になることが決定した。内容に関しては、本学会のポスターセッションや本日の事例解析相談会にて対象となる報告を探すことになった。

5. 委員の力量維持・向上について

貴重な検体を預かるため、力量維持・向上はとても重要なことである。ピットフォール研究専門委員会の活動を通じながら継続していく旨、確認された。